

十勝岳の火山活動解説資料（平成25年7月）

札幌管区気象台
火山監視・情報センター

火山活動は概ね静穏に経過しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。ここ数年、山体浅部の膨張や大正火口の噴煙量増加及び地震増加などが観測されています。また、山麓の温泉成分にわずかな変化が認められているほか、大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測されています。今後の火山活動の推移に注意して下さい。

平成20年12月16日に噴火予報（噴火警戒レベル1、平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴煙などの表面現象の状況（図1-①～④、図2～6）

3日明け方、大正火口付近が高感度カメラで明るく見える現象が観測されました。この現象は高温ガスの噴出や硫黄の燃焼等によるものと推定され、2012年6月以降時折観測されています。今回の現象はごく小さく微弱なものでした。

大正火口では2010年頃から噴煙量がやや多くなり、今期間は火口上概ね200m以下で経過しました。62-2火口では2006年頃から噴煙量がやや少なくなり、今期間は火口縁上100m以下で低調に経過しました。

7月8日に実施した現地調査及び地震計や空振計の記録から、62-2火口内に新たな崩落を確認しました。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-⑤～⑧、図7）

火山性地震は、2010年頃からやや多い状態で経過しています。

震源は62-2火口付近のごく浅い所のほか、グラウンド火口周辺や旧噴火口付近の浅い所に分布しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図8）

GPS連続観測では、2006年以降、62-2火口浅部の膨張を示すと考えられる変動が認められています。

より深部へのマグマの供給によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は、札幌管区気象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

この資料は、気象庁のほか、国土交通省北海道開発局、北海道大学、独立行政法人産業技術総合研究所、北海道、地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。

次回の火山活動解説資料（平成25年8月分）は平成25年9月9日に発表する予定です。

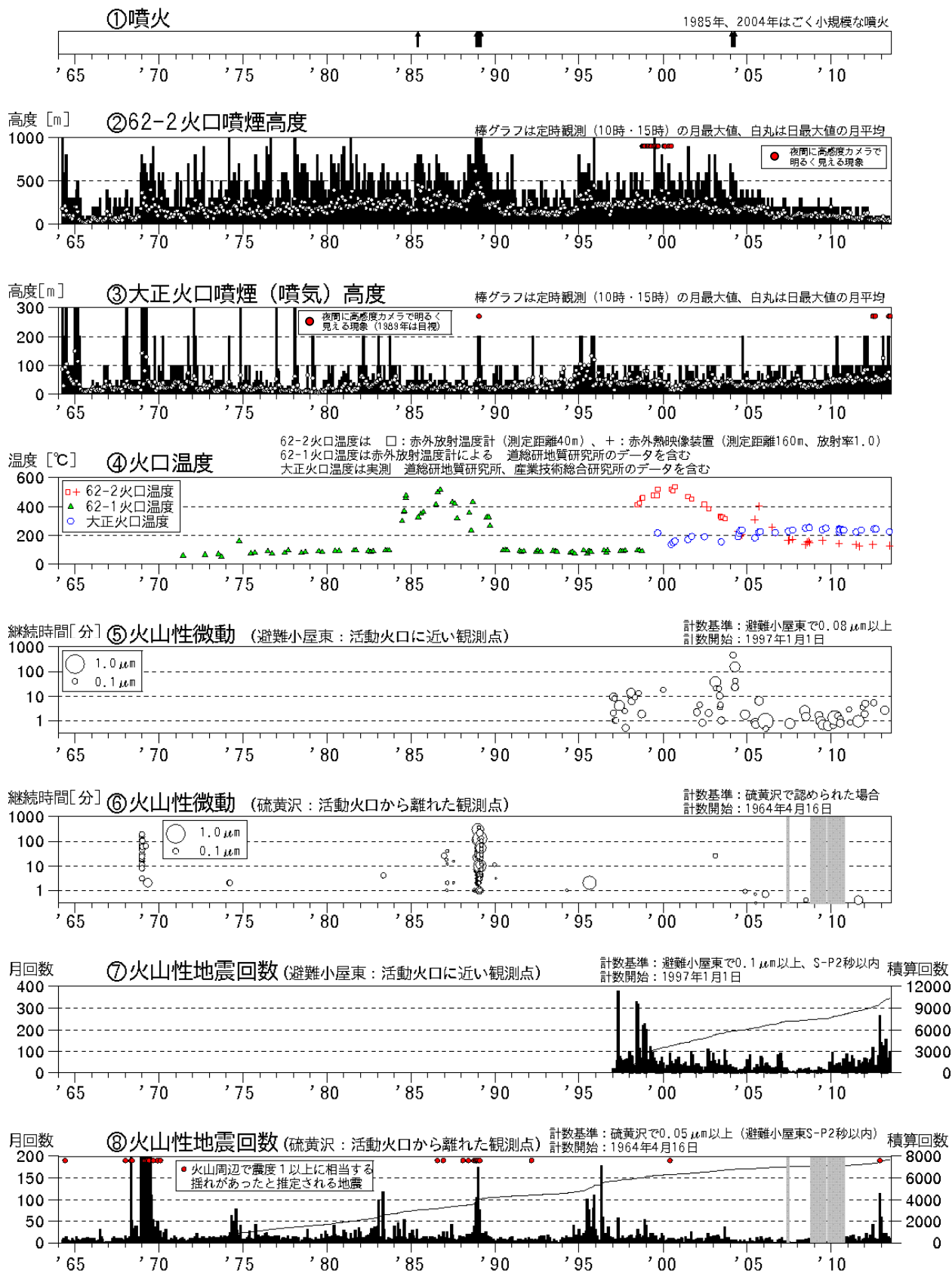


図 1 十勝岳 火山活動経過図（1964年 1 月～2013年 7 月）
 ⑥⑧：グラフの灰色部分は機器障害による欠測期間を示します



図2 十勝岳 北北西側から見た山体の状況
(7月23日、白金模範牧場遠望カメラによる)

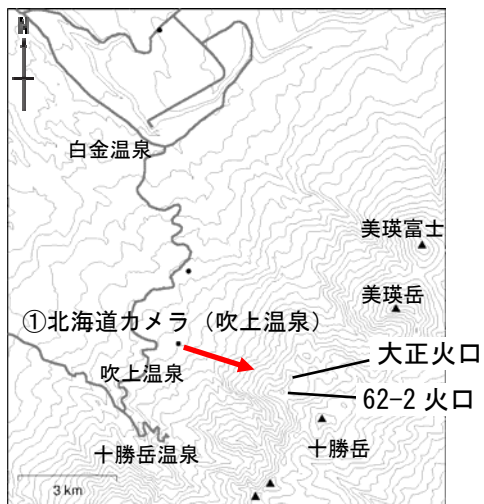


図3 十勝岳 遠望カメラ位置
及び撮影方向 (赤矢印)



図4 十勝岳 大正火口付近が高感度カメラで明るく
見える現象の状況 (7月3日3時7分頃)
(北海道カメラ、図3-①より撮影)

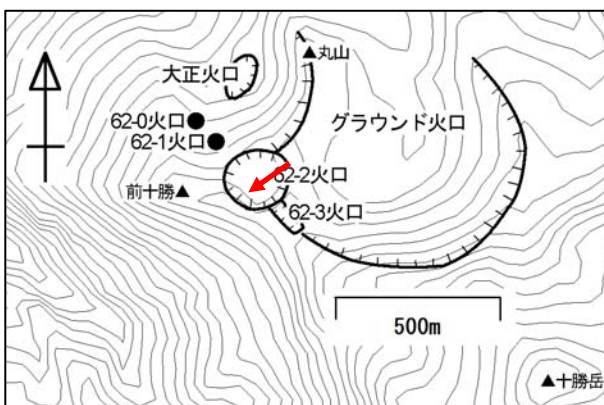


図5 十勝岳 62-2火口周辺図及び撮影方向
(赤矢印)



図6 十勝岳 62-2火口内を北東側から見た
新たな崩落の状況 (点線内)
(図5の矢印の方向から撮影)

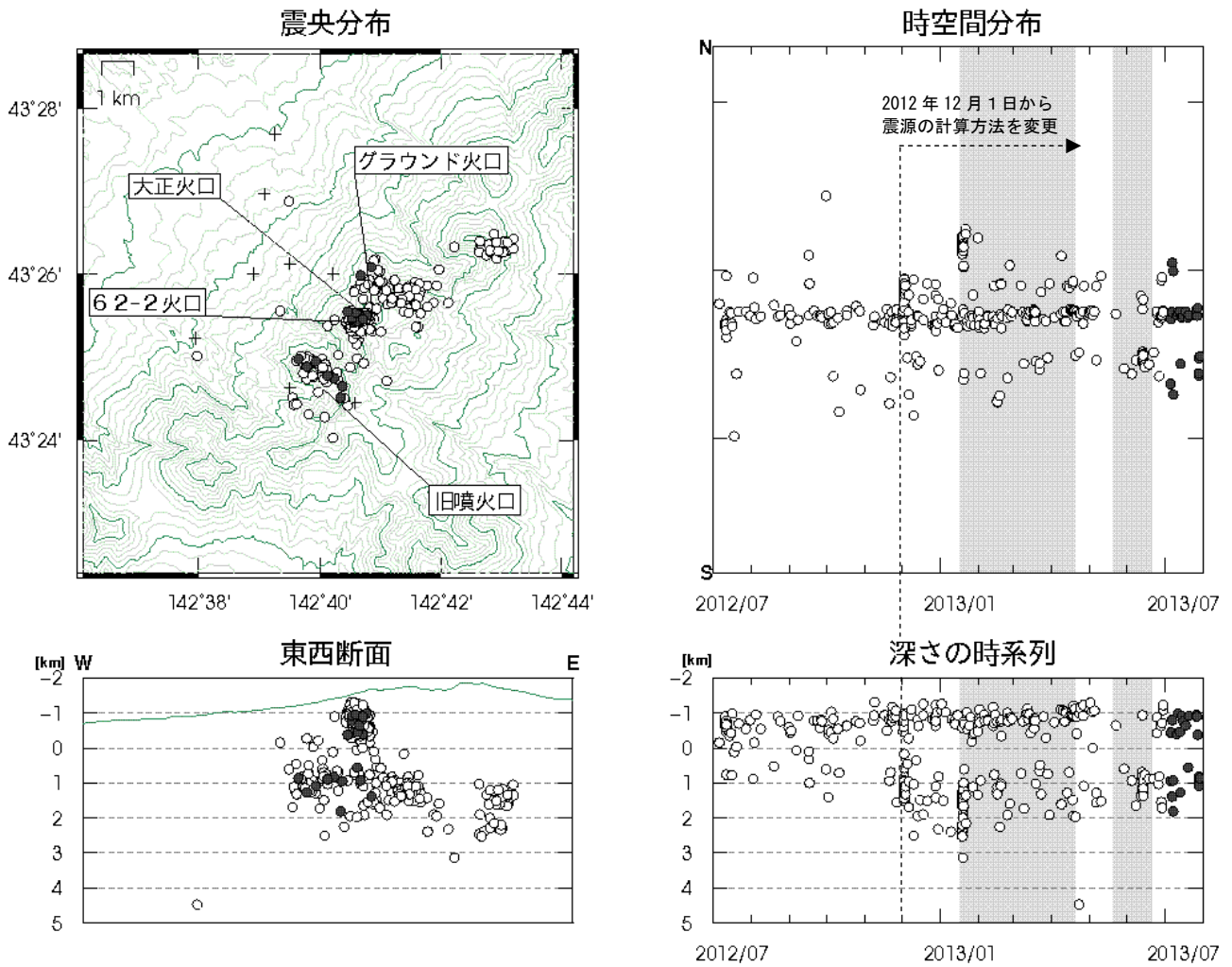


図7 十勝岳 火山性地震の震源分布 (2012年7月~2013年7月)
 灰色の期間は一部観測点欠測のため震源の決定数減少や精度低下が見られます
 ○印：2012年7月~2013年6月の震源
 ●印：2013年7月の震源
 +印：地震観測点

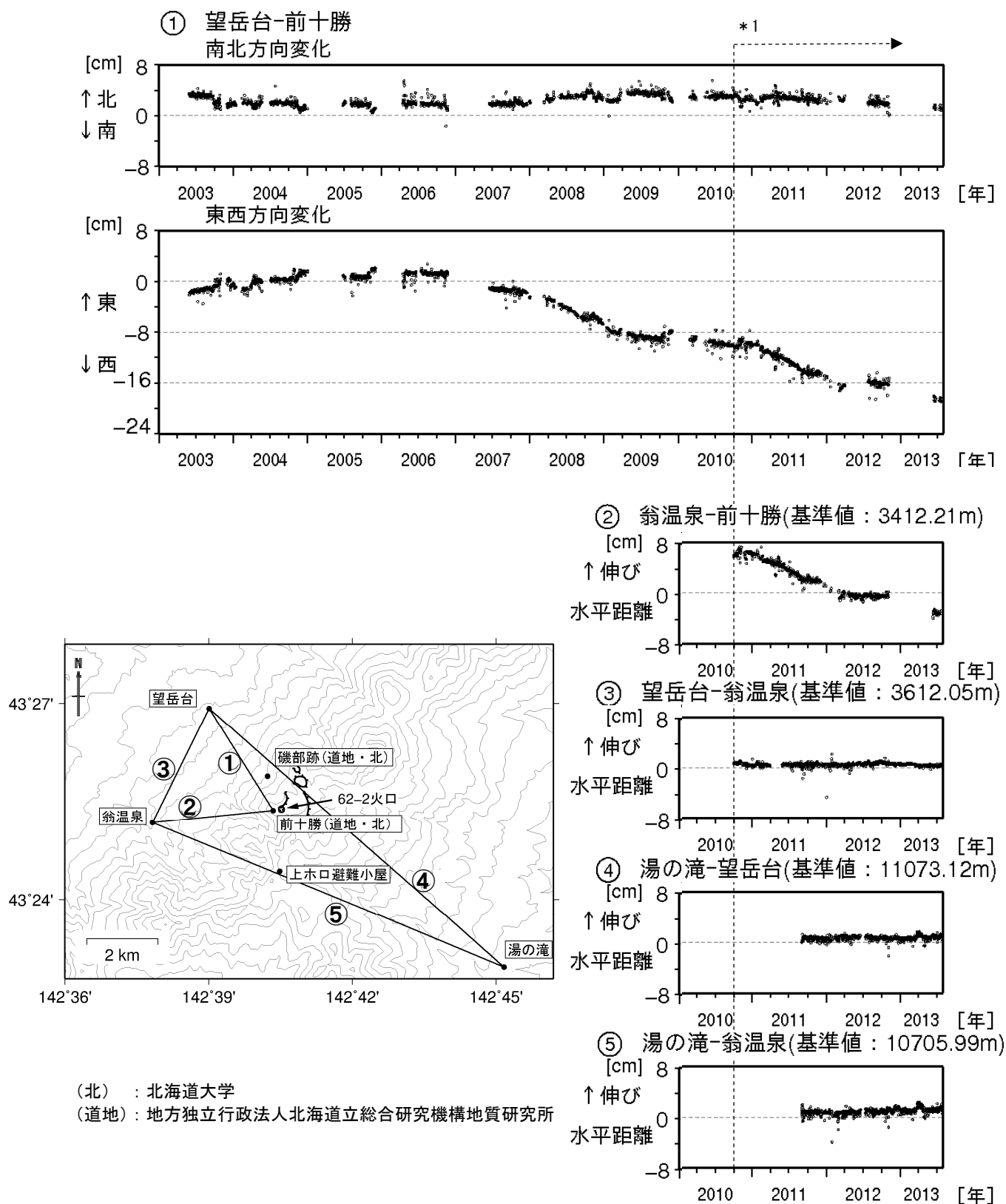


図8 十勝岳 GPS連続観測による基線長変化(2003年5月~2013年7月)及び観測点配置図
・グラフの空白部分は欠測期間を示し、GPS基線①~⑤は配置図の①~⑤に対応しています
* 1 : 2010年10月以降のデータについては、解析方法を改良して精度を向上させています

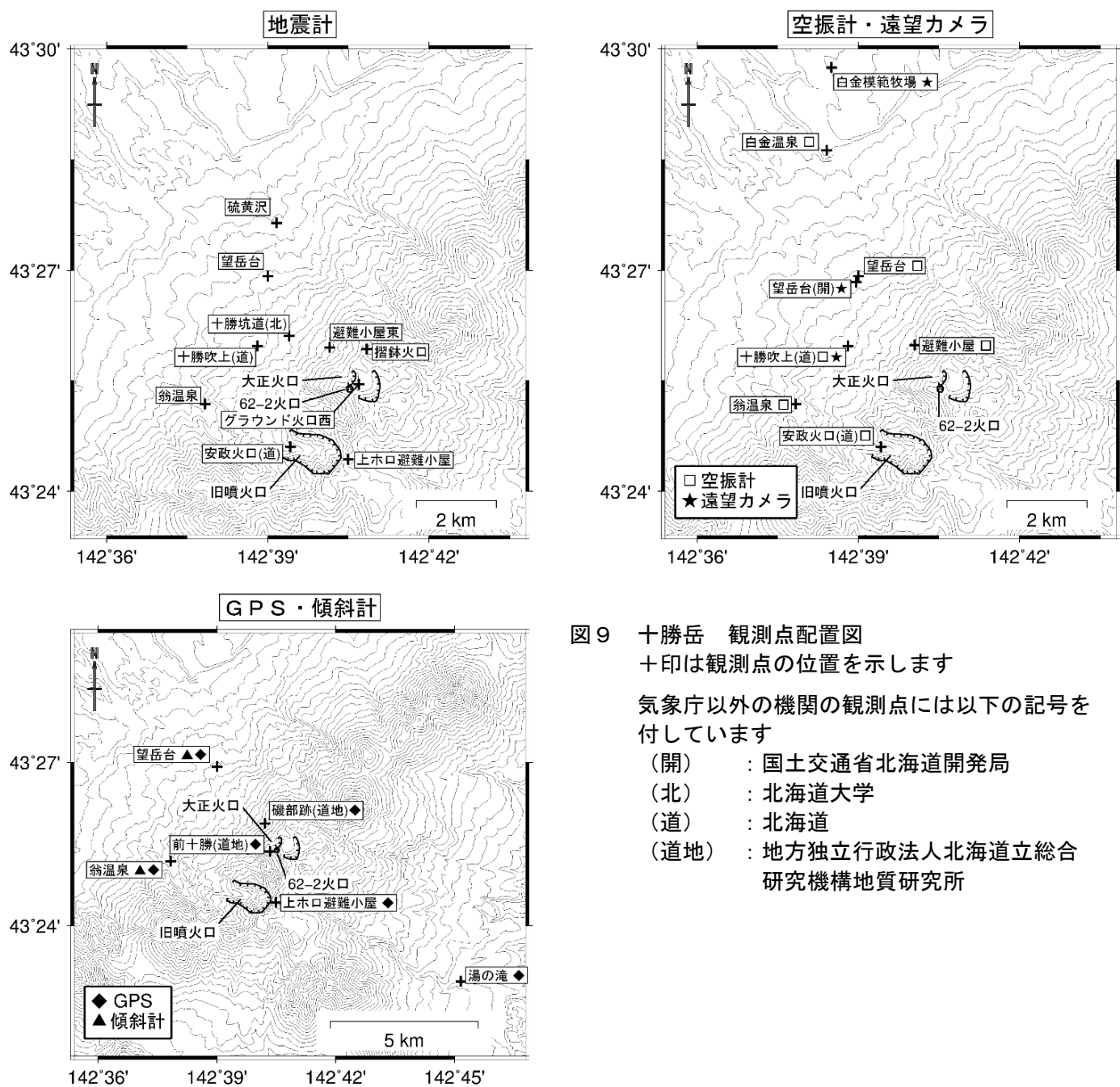


図9 十勝岳 観測点配置図
 +印は観測点の位置を示します
 気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

- (開) : 国土交通省北海道開発局
- (北) : 北海道大学
- (道) : 北海道
- (道地) : 地方独立行政法人北海道立総合研究機構地質研究所